

8月25日(火)「金沢ニューグランドホテル」にて夜間通常例会が開催されました。会長挨拶では、桑島会長より「本日は納涼例会の予定でしたが、テイクアウト例会に変更し、ホテルの豪華特製弁当をご用意しましたのでお楽しみ下さい。まだまだ暑い日が続



きますが、早朝の散歩ではお盆過ぎから風のあたりが涼しく、そろそろ処暑かなと感じています。和歌に『秋来ぬと 目にはさやかに見えねども 風

の音にぞおどろかれぬる』とありますが、今頃の季節のことだと思います。コロナとどのように接していくかが現在の状況ですが、ここで金澤神社に掲げられている明治天皇の詩をご紹介します。『世の中の事ある時にあひぬともおのがつとめむわざな忘れそ』これは、“世の中(コロナも含め)いろんなことが起きるが、自分の務め責任を忘れることなくきちんとやりなさいよ”という意味です。本日はCN60周年について実行委員会より方針・計画の説明があります。実行委員会の思いをお聞き頂きご検討お願い致します。」とご挨拶いただきました。



CN60周年について

はじめに、CN60周年実行委員長久保雅史L.と事務局長内山祥一L.より説明がありました。昨年10月に第1回実行委員会を

開催し、以降、過去の周年のノウハウを踏襲し着々と準備を進め、今年10月28日にホテル日航金沢にて200人規模で記念式典祝宴を執り行うことや、記念事業として卯辰山整備を中心に行うことを決定しました。しかし、今年2月以降の新型コロナウイルス感染拡大を受け、5月特別諮問委員会にて、計画通り進むべきか、見直しをすべきか検討した結果、参加人数を100人規模に縮小し、会場も金沢ニューグランドホテルに変更しました。8月には当クラブ理事会にて実行計画が承認されましたが、コロナ収束が見えない状況下での祝宴は開催すべきではないとの意見があり、昨今の状況に鑑みて祝宴中止もやむを得ないと判断しました。現在の計画では70人規模で式典のみを執り行う予定ですが、今後の状況を見極めながら、参加人数のさらなる規模縮小や、式典中止という選択肢も含めて検討し、9月8日の実行委員会にて最終判断するとの説明がありました。また、記念アクティビティについては、今回新たに石川県への

記念品贈呈やアラート基金設立を行うとの説明があり、久保実行委員長からは、このような活動を志すことは素晴らしく、我がクラブ全員の意向としてアラート基金を設立することができれば嬉しく思うというお話がありました。



引き続き「金沢東ライオンズクラブアラート基金」設立について副実行委員長作田一則L.と記念事業委員長松尾靖L.より説明がありました。まず基金創設

の経緯について、今回のコロナ禍の中、石川県奉仕財団による迅速な支援に限界があるという教訓を踏まえ、ライオンズの『We Serve』の精神から、災害時等に迅速に支援を行うことが重要だと考え、災害時等に迅速に支出することができる基金を当クラブ独自に創設することに至ったという説明がありました。また今年度複合地区からアラート委員会設置要請が来ており、当クラブのアラート基金創設とは意味合いが異なりますが、タイムリーな話でもあるとのことでした。そして、財源については、CN60周年記念式典祝宴の大幅な縮小により事業費予算を拡充できる見通しであることや、各年度繰越金より理事会の承認を得て積立に充てていく方向で考えており、基金が不足した場合でも皆様にご負担をお願いして補充することは考えていないとの説明がありました。皆様全員の賛同を得て60周年記念事業として基金を設立することができれば、当クラブとして基金を有効に活用することはもとより、他クラブもこれに追随すれば、災害時等によりタイムリーに支援を行うことができるものと考えており、本日の説明を踏まえ、9月8日開催の実行委員会までに皆様のご意見を頂戴できればとのことでした。

献血活動報告について

社会奉仕委員長中村隆美L.より・・・「8月17日金沢流通会館にて献血活動が行われ、当クラブより20名、合計51名の方に献血いただきました。また9月24日金沢国際ホテルにてガバナー公式訪問合同例会時に合同献血活動が行われますので、皆様のご協力を是非お願い致します。」(記事 計画委員会)

